

## 第3分科会 これからの育成会 (育成会活動と津久井やまゆり園事件)

	開催日	10月21日	開催時間	15:52~17:10
司会者	福島県	箱崎 孝	(一社)福島県手をつなぐ親の会連合会理事 いわき市手をつなぐ育成会事務局長	
話題提供者	宮城県	千葉 令子	(一社)宮城県手をつなぐ育成会 業務執行理事兼事務局長	
助言者	福島県	照山 成信	(一社)福島県手をつなぐ親の会連合会会長	
記録者	福島県	杉本 雅昭	福島県立郡山支援学校教頭	
記録者	福島県	渡辺 愛里	福島県立郡山支援学校講師 (養護教諭)	

発言者	内 容
司会者 箱崎さん	・司会者(自己紹介)、話題提供者、助言者、記録者の紹介
話題提供者 千葉さん	<p>・P54及び配付資料(落丁部分)に沿って説明</p> <p>◇津久井やまゆり園の事件をうけて</p> <p>もう一年経ってます。平成28年7月26日に発生した事件では、障がいのある方たちやまた私たち家族、福祉関係者にすごい不安と衝撃を与えました。まず、この事件を受けて、これまでの私たちの育成会活動は何だったんだろうかという思いと、これは精神的に弱い人が起こした特別な事件だから、自分たちが動揺することではない。無視しよう、冷静に対処しようとする思いが交錯しました。</p> <p>全国育成会からもすぐ会長の方から声明文が出され、テレビでもだいぶ報道されていましたが、私たち宮城県の本部役員の方でも育成会の課題と今後についてということで、座談会を開催することにしました。その座談会の内容を県の広報誌に掲載して会員に発信したところです。</p> <p>◇事件後に私たちが再認識したこと</p> <p>その中で出てきたことで、私たちが考えたところでは、一番悲しかったのは、インターネット等で同調する声が出ている、これはまだまだ障害のある人を差別する意識が一般の方には根強く残っているんだなということを改めて実感したことです。なおかつ、私たちも今までも活動してきたけれども、やはりもっと社会に啓発、障害を理解してもらうということと向き合わなければならないのかなということを感じた事件でした。</p> <p>一番は、本人が生きててよかったという思いを尊ぶ、親の思いではなく本人の思いが優先されるべきだということを改めて座談会の中でも本部役員の中で話しをしまして、そこから宮城県全部の会員の皆さんに発信したところでした。</p> <p>◇共生社会の実現のために必要なこと</p> <p>私たちはこれまで、障がいがある子のために療育、教育、就労、生活、様々な法整備など皆さんが声をあげて「障がいがある子のために」とい</p>

発 言 者	内 容
	<p>う思いで活動を続けてきたが、障害がある子に社会的な経験や体験を積む機会を積極的に提供して、「こういう人もいるんだ」社会にこの子たちを全面に出して理解を広げていくことの大切さ、また、親である私たちも子どもを隠したり自分たちも内にこもる事なく、地域活動とか自分たちの仕事を通して積極的に外に発信していくことの必要性を改めて痛感した。そしてその少しずつの努力によって社会での受け入れ態勢が整い、周りの社会的な障がいを取り除かれ、1つの障がいクリアされたことになるのではないかと思う。</p> <p>親なき後や育成会の会員が減少傾向にあり、ネガティブなほうに行ってしまうがちだが、そうではなく、この子ども達のために何とか頑張ろうという未来を見ながら楽しむ、前向きにポジティブな考えに持つていくことが私たち育成会に必要なことではないだろうか。</p> <p>障がいがあるからと言って、そこにあぐらをかくことなく、私たち自身ができることはすべてやる。それでもって訴えるべきところは訴える、50or50の関係を持つていくことが世の中の人にも理解してもらえる1つの手段なのではないかと考えている。</p> <p>◇宮城県手をつなぐ育成会の具体的な取り組み</p> <p>全国手をつなぐ育成会連合会会長から「世代交代」という宿題がある。各地の育成会で中心的な役割を担っているのは年配の方々である。宮城県も例外ではない。この状況を何とかしなければ、若い世代のニーズを把握しよう、親や家族が地域社会に発信していくためには、自分たち自身も成長していかなければ、という思いから、平成24年3月1日宮城県手をつなぐ育成会で、学齢児の保護者を対象とした「教育部会」を設立した。</p> <p>教育部会の目的としては、①学齢期の親の啓発活動、育成会活動の必要性、②教育問題について育成会を設置することで様々な角度から育成会として検討し連携機関への要望書の提出や働きかけをしていること、③地域育成会への学齢期の問題理解の拡充、④育成会の高齢化を防ぎ、若い力を入れることで育成会活動の活性化を図る、という4つを掲げ活動している。</p> <p>現在、学校では「育成会」だからといってすぐには入れない。まず、宮城県教育委員会の特別支援教育室へ「教育部会の設立」と「各特別支援学校、学級にPRさせて欲しい」という許可を取った。その後、仙台市の教育委員会にも行き、承諾を得て各特別支援学校、各市町村教育委員会などを直接訪問し案内のチラシを全員に配付した。そこで、会員を募集し、県の育成会に直接申し込みしてもらった。現在は59人の会員が加入し「教育部会」が活動している。</p> <p>県育成会が事務局となり、教育部会の会員の中から会長、副会長を選任し、アドバイザーとして元支援学校の校長に来ていただき月1回の役員会、2ヶ月に1回程度の研修会やおしゃべりサロン、新しい施設の見学会、就労に向けての施設見学会、放課後デイサービスの施設見学会等を実施している。また、夏休みには親子レクリエーションを通して「この子にこういう経験をさせたい」というものを計画して行っている。広報誌や生活支援ノートの発行など情報の発信にも努めている。生活支援ノートはサポートブックとして配付し、なかなか情報が入りにくい特別支援学級の保護者へも情報を提供している。中には、教育部会でここに</p>

発 言 者	内 容
	<p>きてよかったという思いから自分の住んでいる地域の育成会に加入し、地域の育成会の活動も一緒にしている保護者が数名ずつ増えている。宮城県では、仙台市の育成会が今回家族会ということで昨年度から新しく立ち上がったが法人の育成会の方しか入っていない状況であるため、その他の障がいをお持ちの方が県や市の育成会に加入していない状況である。そのため学齢期の保護者が育成会に加入していない状況もあり、それを何とか打開していきたいという思いから教育部会が立ち上がったこともある。教育部会を通して地域育成会に賛同しメンバー増加に繋がることを期待している。</p> <p>◇最後に…</p> <p>全国手をつなぐ育成会連合会会長が交流誌に「わが子、わが家族が、その人らしく輝きながら、人として当たり前で暮らせる社会の実現が育成会活動の目的です」と述べられていて、そこに共感と感動を覚えた。育成会は、親同士の心の結びつきが原点となっている。インターネットで様々な情報は発信しているが、心重視の活動を大切にしている。顔をみて生の声でふれあえて、心と心が通い合える交流が何よりの利点である。</p> <p>今の保護者の方々を見ていると、自分の子どもに対しては療育などに関してとても一生懸命であるのに対し、要望を出していくとか地域でまとまって何かをする事などに関しては、とても消極的な印象がある。そういった保護者の方々に見合った活動ができないのだろうかという悩みもある。</p> <p>また、育成会の活動も子ども達のためにということで法整備とか一生懸命やってきたが、今度は広い社会に向かって障害者の理解について地道に根気強く啓発を続けていかななくてはいけない。山形でやられているキャラバン隊などもあります。障害者の理解を各地域でも民生員の会議に呼んでもらって説明した。民生員の方でも、「障害のある方に声をかけてはいけないと思っていた」「どんな風に声をかけていいの?」といった声も聞かれた。一般の方でもっと困っている。今までよりは理解がされているがまだまだ足りない現状がある。根気よく地道に少しずつ続けていくことが育成会活動では大切なのではないかなと思う。</p>
司会者 箱崎さん	<p>千葉さん、どうもありがとうございました。</p> <p>この発表について、助言者である照山さんに簡単に講評を頂いて、それから質疑応答に移りたいと思います。</p> <p>照山さん、この宮城県の取組については、どう思いますか。</p>
助言者 照山さん	<p>短い言葉で言うのは大変なんですけど、気づくということはなんだろうと思います。今、皆さん天気予報ってすごく正確だと思いませんか。昔は、当たらないことを天気予報のようだといいました。なぜかという、より遠くから見るできるようになったので誰でも分かるようになっていくということです。ですから、この障害者の問題も、気づくという、どうして気づくかという問題を克服しないとなかなかわかりにくいのではないかな。</p> <p>もうひとつの視点としては、顕微鏡。昔は、病気でもなんでもわからなかった。ところが今は、細菌をものすごく小さな単位で捉えることが</p>

発 言 者	内 容
助言者 照山さん	<p>できるようになり対処することができるようになってきた。だから気づくということやまず意識していくということが障害者とかかわっていくときに最も大切なことなんだなと思います。今日、私は冒頭の挨拶で、実施主体が市町村だから、これから格差が広がるのだろう、これをなくすために一生懸命頑張りましょうと話しました。社会にそれを求めるのなら自分自身がそうなることが必要だからせっかく集まったからみんなです。そのところを確認し合えるような大会になったらいいなと思ったわけです。</p> <p>千葉さんの報告の中から、気づくっていうことは大切なことなんだなという風に大きな視点で捉えてもらえると、ものがよくわかるようになってくるんだと思います。自分自身が本当に障害者に対して、この権利条約に示すような社会を求めているのだろうか、そういう行動をしているのだろうか、そういう問題提起が千葉さんの言葉の中にあっただと思うので、是非とも自分の思いをこの場所に出して行ってほしい。そして自分だけではないんだということを確認して、全東北で活動を強化し、強固な組織になっていけばいいと、千葉さんの言葉を聞きました。大変貴重な話だったと思います。あと、皆さんのフロアーの中から出てきた考え方と、私との考え方、話題提供者の考え方などを行ったり来たりしたら大変ありがたいなと思います。</p>
司会者 箱崎さん	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは質疑応答に移りたいと思います。千葉さん、あるいは照山さんにお聞きしたいことがありましたら、挙手して所属とお名前を申し、質問をしてください。</p>
山形県 事務局長 黒木さん	<p>千葉さんのお話の中で学校に「育成会」が入りにくいということがあったが、教育部会のメンバーは全員新しく加入した方か？</p>
話題提供者 千葉さん	<p>はい、そうです。</p>
山形県 事務局長 黒木さん	<p>メンバーを集めるためにPR方法としてはどんな方法で行ったか？</p>
話題提供者 千葉さん	<p>各学校などを訪問し教育部会の加入申込書を配布した。 私自身が特別支援学校の保護者だったので、校長先生にお願いしたりした。</p>
山形県 事務局長 黒木さん	<p>特別支援学級の話もあったが、支援学級の保護者を集めるためにはどんな手立てをとったのか。</p>
話題提供者 千葉さん	<p>特別支援学級は、各市町村の学校であるため市町村の教育委員会を回り、配布をしていただいた。また、保護者さんの横の繋がり口伝に「こういう会があるから入ってみない？」ということで入会された方もいる。</p>
山形県 事務局長 黒木さん	<p>今後教育部会の59人は増えていくと考えているか？</p>

発 言 者	内 容
話題提供者 千葉さん	増やしていきたいと考えている。しかし、学校の卒業と同時に抜けてしまうので新入生に加入してもらおうようになっていく。
山形県 事務局長 黒木さん	今後どう増やしていくのが課題ですね。
話題提供者 千葉さん	その通りだと思う。自分の都合の良い時には参加したいが要らない部分は参加しないという保護者もいる。しかし、それはそれでいいのではないかと考えている。まだ入会していないが行ってみたいという方にも心を広くして来てもらうような体制にしている。
いわき育成会所属 ヤナイさん	<p>41歳ダウン症候群の子どもがいる。親として健常者とともに同じように生活できないかという思いがあり、障がい者と認めたくなかったし、ともに生活させることで障害を乗り越えられるのではないかと考えていたこともあった。</p> <p>現在はB型就労施設で毎日欠勤することなく、パン作りを頑張っている。親は自分の子は自分で育てるという思いが強い。親なき後のことも考えてはいるが、行政や社会に働きかける前にグループや会、施設の働きが大切であると思う。授かった我が子を一生面倒みていくという信念には変わらない。人を抱きこむよりも、まずは自分たちでもっと活動していくことも大切だと思う。</p>
助言者 照山さん	<p>そういう生き方もあったんだなと思ってます。私は、生まれた時にすでに障害者と一緒に育てられる環境にありました。結婚適齢期になり、この人といったら素敵な女性に愛される条件を失うなと（思っていた）。そういう風な考えを持ってはいけないと父にきつく諭されていた。心の中ではこの人いなければと思っても、それを生活の中で主張することができない。そこで私が思ったのは、結婚は選ぶのではなく、選ばれるという条件がないと選ぶことができないんだなと気がついた。選ばれるためには、直接結婚する相手でなくてもいいわけですよ。その祖母だったり、兄貴だったり、照山さんて素敵な人だよって、悪口言う人がいたらそんな人ではないこんな人だよ、こういう生き方こそが素敵な女性に愛される条件に結びつくということに気がついた。</p> <p>それで今、私は施設で28人の障害者と一緒に6年の共同生活しているんですが、この人にもものを頼んだり、自分が思うように生活してもらうために、最初は指示命令、管理監督をしていたが、後で気がついた。指示命令、管理監督はいらないということに…。要するに相手を好きにならないと自分を好きになってもらえない、自分を好きになってもらえないと相手に自分の意思が伝わらないということに気がつくんですね。70歳を過ぎてから…。それで、徹底して相手を好きになる、いいところはどんなんだろうか、君のいいところこれだけ知っているんだということ絶えず送り続けて、今では相手に好きになってもらって自分の言うことが通るようになるんですね。だから、気づくということが…70歳になって初めて私気づくんですよ。それまでは、考えることが先行するんですね。そうじゃなくて、行いこそが大切なんだ、相手に優しく接するというのを基本として生きていかなければ、障害者の問題は見えにくい。そして、今私が気づいているのは、障害者のためにやっているのではな</p>

発 言 者	内 容
助言者 照山さん	<p>い。自分自身が楽をして素敵な時間を手にするために障害者に優しくするんだなって今は考えています。ですから、障害者の面倒をみる、それはそれでいいんです。それは、自分のためにということにも気づいて、楽しい時間を手にして生きていく生き方を皆さんで築きましょうということが大切なんだと思ってます。</p> <p>今の、確信と自信に満ちてこの道を歩いてきたというお父さんの熱い思いは私よくわかります。そういう生き方をしている人はいっぱいいるんだなと気づかさせてもらって大変嬉しい時間になっています。</p> <p>それで短く言います。「芝生に入るな」という立札があったら、芝生に入る人がいるんだなということでしょう。だから入って欲しくないってことでしょう。ですから、障害者の権利条約は、障害のある方の尊厳を損なわない生き方をしましょうという約束なんです。障害者を差別して生きている人が、いっぱいいるから、あの法律が必要になったという風に考えることが必要です。みんなでこの法律が求める人間関係を社会に作りましょう。その時初めて障害者が本当にその尊厳を大切にしてもらって共生していける社会がくるんじゃないかと思います。</p>
青森県育成会所属 阿部さん	<p>八戸出身、42歳ダウン症の子どもがいる。</p> <p>自分も経験があるが、59人も部会のメンバーを集めることはすごい。どんなチラシを作成したのか。</p>
話題提供者 千葉さん	<p>チラシの内容はほとんど文字だけのもの。</p> <p>ただ、なぜ「教育部会」がはじまったかという経緯が長く、県の育成会で特別支援学校との懇談会というのを実施していた。それに支援学校の役員の方々が集まっていた。その時に支援学校での若い世代の様々な問題を把握し、活動の一環として取り入れていこうという趣旨があった。しかし、年に1、2回の懇談会では課題が吸い上がらないため、特別支援学校のPTA会長の何名かをピックアップして課題検討委員会からはじまった。そして1年かけて教育部会で何をやるか協議検討して立ち上がってきた。</p> <p>そういった関係もあり、特別支援学校のPTA連合会の研修会などにも呼んでいただくことがあり、そういった場で育成会の活動についてPRする機会もある。</p>
青森県育成会所属 阿部さん	<p>後援会のPTA役員との交流会を行ってきた。PTA会長と県の育成会副会長を担ってきたが多忙のため、若い方に代わったら、その方に続いて他の若い方も加入した。そういう世代交代もあると感じた。</p>
宮城県育成会所属 長谷川さん	<p>千葉さんの教育部会の話、自分の会なんですけどよく続いてきたなと思います。予算、会費について、これから質問があるかな…。この事業の予算はどこから、どのように出ているのか疑問に思われるのではないかと思います。そこを千葉さんにお話していただきたいのと、私たちのようにすでに学童ではない子供を持つ親は、賛助会員となって協力しております。</p>
話題提供者 千葉さん	<p>会費についてですが、教育部会単独で入っている方は1年に2,000円です。その中から市町村の育成会に入った方は1,000円に安くなってま</p>

発 言 者	内 容
	<p>す。大した金額ではなくてどうやってやっているんだということなんです。一番最初の時に、宮城県の委託事業で「知的障害者交流活動推進事業」という県で障害者に対する事業を宮城県が育成会の方に委託してくれて、若干人件費もつけて活動予算が入るんですね。その予算の中から、この教育部会の活動費として事業費を使って、1人、今だいたい0.5人くらいの人件費も出ていましたので、事務局職員がそれをやって、他にもいろんな委託事業を宮城県の育成会はやっているんですが、その0.5人くらいの人件費で教育部会の担当もやってくれていたというところなんです。それが2年くらいあったんです。平成27年からは、全くそういう事業は宮城県ではなくなりましたので、教育部会単独での予算になっています。その2～3年で積み上がってきた予算と、今は赤い羽根募金の助成金を頂いて広報誌は全部それで間に合っているような感じですよ。27万円位もらっているんですけど…広報誌はそれで間に合ってます。講師を頼むときには、出来るだけ安く、「お金ないんです～」って1万円くらいで来てもらったり、みんな手弁当で、なにかどこかへ行くって言えばみんな自家用車で出かけますし、役員会の報酬はもちろんないですし、手弁当でみんながんばろうということで集まってやっているような状況です。県の育成会の事業があるときには、育成会の会員じゃなくても、教育部会の会員であれば、案内を出していろんな研修会にも参加していただいて、育成会の事業にも興味を持ってもらうっていうことでお願いしているような状況です。</p>
<p>青森県所属 三上さん</p>	<p>津久井やまゆり園の事件はとても衝撃を受けた。 福島県としての取り組みはどのようなことをしているのか。</p>
<p>助言者 照山さん</p>	<p>福島県の場合は、社会的人格を持たないと社会が正しく付き合ってくれない、今までは手をつなぐ親の会という任意団体だった。それを社会的人格を持った法人格を取得して、県の委託事業なども含めて支給できるような機能を身につけること。また、県とそういった関係ができることによって、これからの権利条約に基づく社会構築のための努力を行政が担っていくときに私たちの意思が十分反映できるのか否か決まってしまう。</p> <p>抽象的な話になってしまうが、すぐ隣の人だけで会議をしたら皆さんの心の中には、どんなものが残るか。ところが今の空席がない状況である。皆さん自身の存在がここを成り立たせている。そして皆さん自身の存在が社会を動かしている。</p>
<p>秋田県所属 高橋さん</p>	<p>育成会の今一番の悩みはおそらく会員数の減少であると思う。学齢期の保護者が一番悩んでいると思う。そういう方たちにアドバイスなどして手助けしていかなくてはならない。そうすることによって育成会の会員も増えていくのではないかと思う。</p> <p>会員数を増やしていくにあたって、1つの考えとして在宅の保護者たちに育成会への加入をどうしていくかということがテーマとしてある。調べたところによると、秋田県は知的障がい者が7,300人おり、その内在宅者は、2,500人いる。在宅者のうち就労している者が500人、病院等に通っている者が200人、福祉サービスを利用している者が200人、残りの1,600人はただ家にいるのが現状である。そのただ家にいるという人</p>

発 言 者	内 容
秋田県所属 高橋さん	<p>たちをどのように巻き込んでいくかが課題であり、育成会の会員数のアップや親たちを助けるということに繋がると考える。</p>
司会 箱崎さん	<p>いわき市の事例を取ると、いわき市は療育手帳を発行している人が約2,400名いる。その内会員は600名である。市町村によっては会員数が20%以下のところもある。いわき市では前会長が特別支援学校に働きかけて熱心に呼びかけたところ、いわき市の特別支援学校では半数が育成会に入会している。会員を増やすには特別支援学級も同様で、前々会長は小学校・中学校合わせて108クラスある特別支援学級を全て回って会報を渡すということもしていた。</p> <p>特に、特別支援学級には情報が入らず、療育手帳の存在すら知らない保護者もいる。社会においては知的障がい者理解にはあまり関心がないように感じられるが、千葉さんの取り組みの中で効果があったものについて伺いたい。</p>
話題提供者 千葉さん	<p>教育部会では知的障がい者を理解するための活動はあまりしていない。自分たちが勉強して子ども達のためにというところで活動していた。教育部会ではなく、県の育成会では知的障がい者の理解ということで各市町村を回って自分の子供の体験などを話したり、キャラバン隊のような活動をしている。しかし、キャラバン隊というと得手、不得手があり、そういう活動が不得意な人もいるので、もどきで良いので地道に実直に活動していく。まず教育部会は子どもを連れてどこにでもいく。受け入れ体制も緩やかになってきているように感じる。</p> <p>そして、お母さん自身も子どもを何とか世の中で生活していけるような状態にしていくためには、やはり世の中に出していかなければいけないという考えが多く出てきているので自然とできてきているのではないかと思う。</p>
司会者 箱崎さん	<p>照山会長より総括</p>
助言者 照山さん	<p>「ありがとうございました」という言葉以外にない。真剣に話し合いができた。</p> <p>これからの私たちの活動は一般の人を巻き込んだものにしなければ、障がい者の権利条約を我々が社会に求めるような形にしていくことはできない。障がいを持った子どもがいる親のみで活動するのではなく、もっと広い器で活動していかなければいけないと今論議で気がついた。一般の人を巻き込んだ運動になって、「そういえば俺の隣にはそういう人がいるよ」と社会が教えてくれるような運動を私たちは展開していきたいと思っている。皆さんの様々な発想の仕方を来年の山形大会に持って集まっていたきたい。</p>
司会者 箱崎さん	<p>地域に出て行って地域の人たちの心を耕す活動をしていくことで理解が深まっていくのではないかと思う。</p> <p>&lt;終了&gt;</p>